

「小泉明郎展『帝国は今日も歌う』」で販売したパンフレットについての訂正とお詫び

2017年5月3日から11日までVACANT（東京・原宿）にて開催いたしました「小泉明郎展『帝国は今日も歌う』」にご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。短い会期でありながら、2回のトークイベント参加者も合わせ、約2000名の方々に作品をご覧いただき、心から感謝しております。

さて、展覧会会場で販売した本展パンフレットに関して、訂正とお詫びがあります。

パンフレットに論考を執筆いただきました藤田直哉氏は、連続企画「社会の芸術フォーラム」の記録として制作、出版された『社会の芸術／芸術という社会』（北田、神野、竹田編著。フィルムアート社、2016年）について言及されています。そのなかで、同フォーラムの第6回に参加した小泉明郎の発言が掲載されていないことに対し、「小泉の発言が排除された」旨の記述をしましたが、実際は同書が第5回までの記録であり、第6回は編集対象ではなかったと、関係者より指摘を受けました。

事実の誤認と、それに基づいた「社会の芸術フォーラム」に対する誤った評価を展開させ、読者に誤解を生じさせる内容となったことについて、その非を認め、お詫びいたします。

なお、現在、その経緯などを盛り込んだ新規のテキストを準備しております。まず、今後の販売品には元の原稿と併読できるように同封いたします。また、すでにご購入の方のために、誰もが無料で入手できる手段を後日、このような場を用いて告知いたします。

「社会の芸術フォーラム」の方々をはじめ、ご関係の皆様にご迷惑をおかけしたことにつきまして、発行者、発行所、筆者、編集者ともども、重ねてお詫び申し上げます。

2017年5月25日
無人島プロダクション＋小泉明郎スタジオ

私、藤田直哉の論考中、「社会の芸術フォーラム」の書籍版『社会の芸術／芸術という社会』（フィルムアート社、2016年12月刊）から小泉明郎が排除されているように見えるという旨を記述した箇所がありましたが、小泉が登壇したフォーラム（2016年7月）は第6回であり、編集対象は第5回まで（2015年度のまとめ）であると、「社会の芸術フォーラム」関係者からご指摘をいただきました。書籍は隅々まで読んでいたものの、このご指摘で、初めて2015年度のまとめであることを知りました。

「社会の芸術フォーラム」からの「小泉の排除」は事実誤認であることをお詫びし、訂正いたします。たいへん申し訳ありませんでした。

また、それを前提にして論を展開した部分における「社会の芸術フォーラム」への評価は、撤回いたします。事実誤認を根拠にしたネガティブな評価を流通させたことには、大きな問題があると反省しております。ただいま追加原稿を準備しておりますので、無人島プロダクションさんと協力し、可能なかぎり訂正を届ける努力を行ってまいります。

ご指摘と同時に、「小泉氏の発言はむしろ積極的に載せたい」とのご意見も伺いました。「社会の芸術フォーラム」が、芸術の自由を排除するのではなく、むしろ積極的に受け入れ、危険な部分も含めて検討の対象にしようとする姿勢を持った重要な意義のある試みであることを、あらためて強調させていただければ幸いです。

2017年5月25日
藤田直哉